

授業改善書

科目名	犯罪・非行心理学
担当者	古曳牧人

授業の概要

本講義では、犯罪社会学や犯罪心理学の理論の解説、性格や家庭と犯罪・非行との関係、依存・嗜癖の問題、犯罪捜査、犯罪被害者支援等について解説を行った。全体としては、加害者の心理を中心とした講義内容であったが、犯罪や非行の多くは、様々な要因が複雑に重なり合った結果起こっていることを理解できるように留意した。

履修者数が多かったこともあり(107名)、講義形態としては板書中心となった。

授業の問題点

昨年度と同様、受講者数が多く、双方向のやり取りを取り入れた授業を行いたかったものの、基本的に一方通行の講義形態とせざるを得なかった。これは、「質問や発言をしましたか」という項目での評価が低い(2.44)ことにも影響している。

大教室ということもあり、実際に熱心に受講している学生と私語が目立つ学生がはっきり分かれていた。昨年度のアンケート結果では、授業を円滑に進めるための配慮についての平均値が低く(3.39)、今年の授業では昨年よりも注意の回数を増やし、アンケート結果も4.02に向上したが、まだ改善の余地はあると考えられる。

アンケートの記述では、サイコパスを取り上げてほしいというものがあった。学生の関心が高い内容であることは分かっているが、昨年度、授業内容を盛り込み過ぎた反省から削った部分であり、授業全体の趣旨を考えると、これを盛り込む余地は少ない。板書に関する苦情もあり、板書の評価も相対的に低めであった。

授業改善の課題・方策

昨年度に引き続き、2回目の授業であったが、本年度は、昨年度のアンケート結果を踏まえた改善により、アンケート結果でも改善が見られた部分があるため、その点も考慮の上、以下の改善策を講じたい。

・昨年度に比べて、全体のボリュームを少し減らすとともに、具体的な説明を増やすなどして、学生の理解を深めるための工夫を行ったところ、アンケート結果は全体的に向上した。基本的な方向は維持した上で、授業内容をさらに見直したい。

・授業中の私語に対しては、さらに注意したい。本年度、何回かリアクション・ペーパーも取り入れたが、人数の関係で毎回実施するのは難しい。

・板書に関しては、ていねいな板書を心掛けたい。

・中間テストを実施したが、次の回で解説を行ったことにより、学生の理解が深まったと思われるので、これについては継続したい。

・これまでは、最も人数の多い人間文化学科の学生に合わせて授業を行っているが、本年度の授業では、学部、学科による理解度の差が気になった。改善を図ることは難しいが、課題であると考えている。

その他

特になし